

- (1) 自らの学習状況を客観的に把握するための情報として、生徒自身で学習の計画を立て、記録を残していくようにする。**【学習した記録を残すことの有用性とその記録を学習改善に活用することの必要性を自覚】**
- (2) 日々の学習情報（学習時間、内容、方略、テスト等の結果など）を収集、蓄積することが必要であり、自身の学習を分析しやすいようにグラフで表示している。
- (3) これまでのプリントや手帳とちがい、GiGA 端末を活用し、生徒が個々にクラウド上の個人フォルダで管理する。
- (4) セルフマネジメントシートは学習支援ソフトを利用することで、時間や場所を問わず指導者とやり取りすることができる。指導者とやり取りをすることで生徒は新たな学習方略を獲得することや、学習の進め方についてのアドバイスを得ることができる。

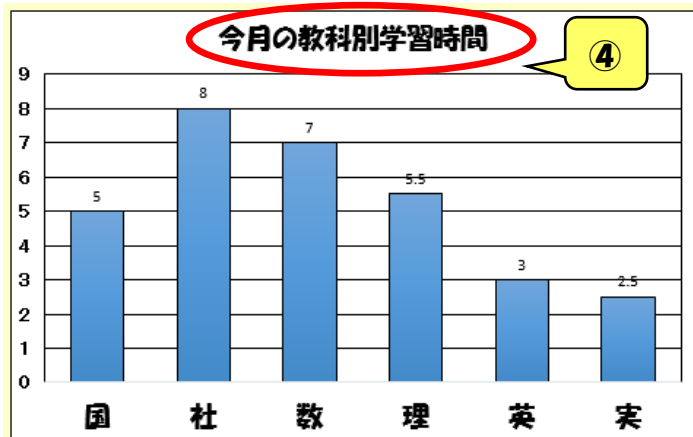
[illegible]

→ “繰り返し” 行ったという部分が方略であり、単に「問題を解いた」といった方法とは違う部分だが、学習方略は学習方法も内包している概念だといえる。

④勉強する予定（計画）時間と勉強した（実行）時間を入力すれば、一週間ごとに目標達成までの残り時間が自動的に表示される。

土			日					目標まで
4	予	実	5	予	実	予	実	
						週間勉強時間	15	7
漢字プリント 用語の暗記		1	文法	1	1	国	2	2
		1		2		社	4	1
	2					数	3	1
	2					理	2	1
プリントで用語を確認			長文読解	1		英	3	1
						実技	1	1

⑤勉強した（実行）時間を入力すれば、その月の合計学習時間が教科ごとに自動的に表示される。



⑥1 か月の学習の振り返りを入力し、指導者からアドバイスを受けることができる。

今月の学習の振り返り

自分ではやっているつもりだったが、
グラフを見ると社会と数学以外はほとんど
勉強をしていない。
理科も英語も暗記する勉強ばかりだった。

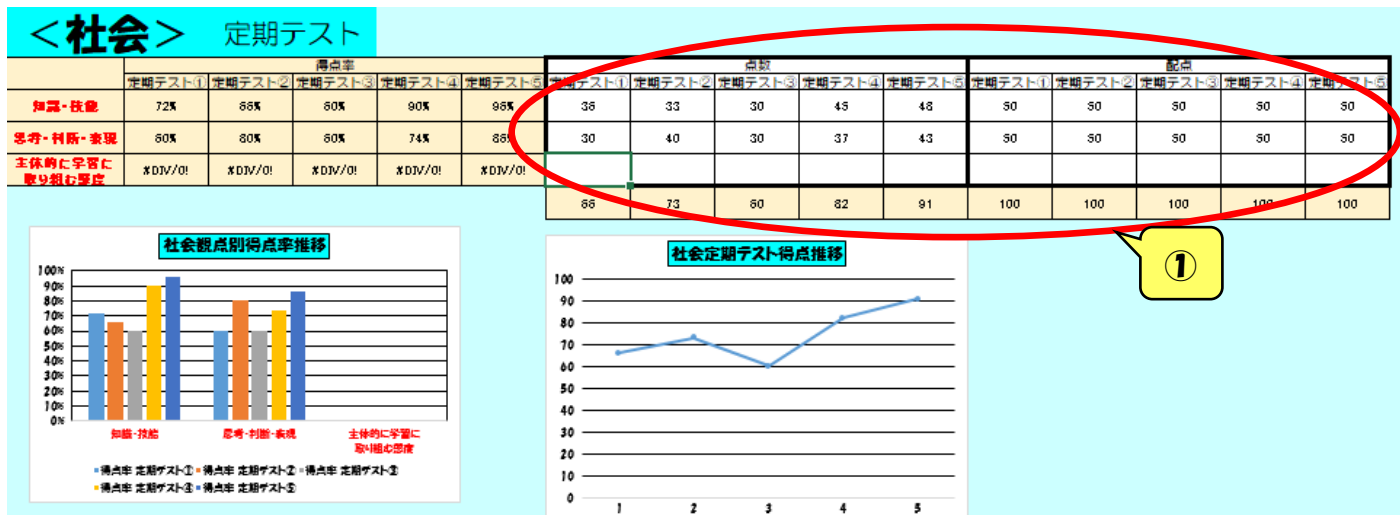
教科別総学習時間

国	0
社	0
数	0
理	0
英	0
実	0
総	0

先生からのアドバイス

前回のテスト結果から、今後力を入れたい科目は何か？
単語の暗記以外にもいろいろな勉強方法があります！

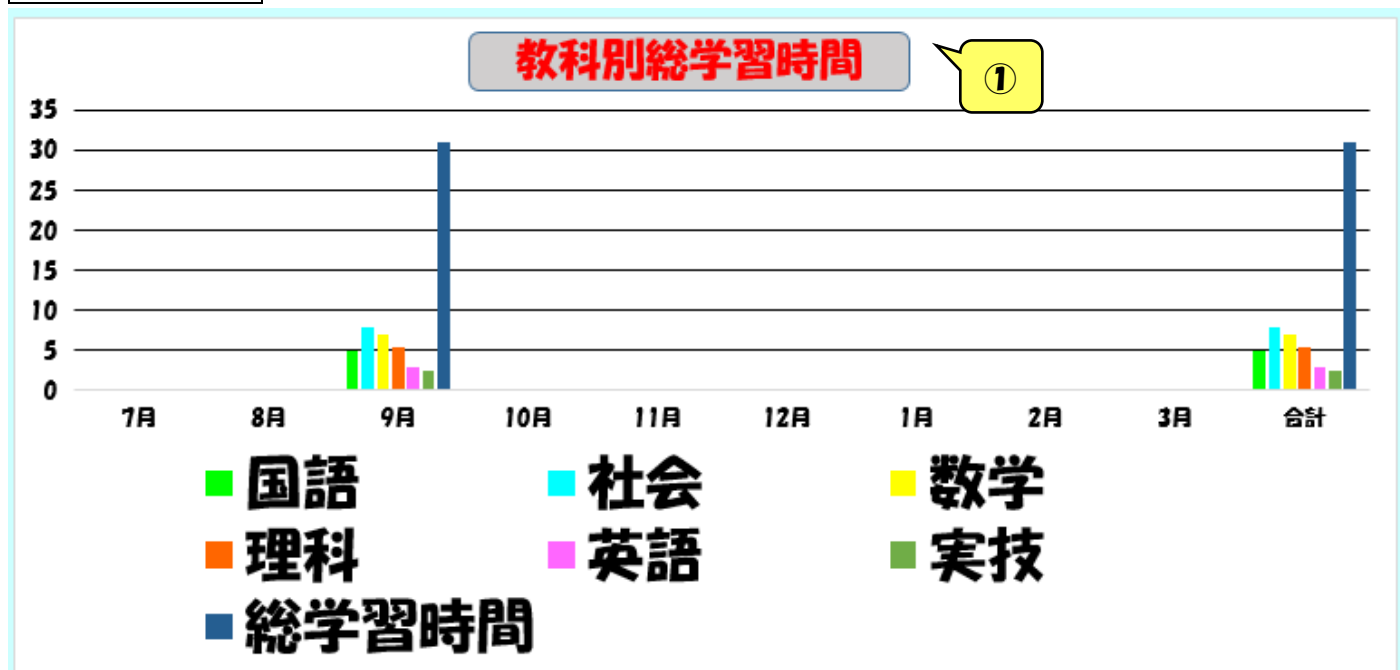
☆定期テストデータ、単元テストデータのシート



①テストの素点と配点を評価の観点別に入力すると、観点別の得点率の推移（棒グラフ）と合計点の得点の推移（折れ線グラフ）が自動的に表示される。

シートは国語、社会、数学、理科、英語の5教科を用意している。

☆学習記録のシート



①記録してきた年間の学習時間が教科別に表示される。

<セルフマネジメントシートの運用>



(1) 学習支援ソフト “Teams” を利用して、生徒に配信する。

(2) 配信されたセルフマネジメントシートを “ONE DRIVE” に保存する。

*保存する際のファイル名は、例：) 2212□□△△セルフマネジメントシート とした。

(学年・組・出席番号・氏名)

(3) 生徒は日々、ONE DRIVE 内にあるセルフマネジメントシートを開き、自身の学習情報を（学習時間、内容、方略、テスト等の結果など）を入力していく。

(4) 入力したセルフマネジメントシートは学習支援ソフトを利用して、指導者に提出する。

*実践では “Teams” の “課題機能” を活用した。

①指導者が課題を生徒に割り当てる。→生徒は割り当てられた課題に従い、セルフマネジメントシートを添付して提出する。

②指導者は提出されたセルフマネジメントシートをチェックし、アドバイスを添えて返却する。

その際は、生徒の学習時間の偏りや行っている学習方略の多様性などに留意する。

③提出のサイクルについては基本的には週に1回。また、学習した記録を残していくことは定期テスト前だけでなく、日常的に行っていく。

④メインとなる月ごとのシート内にも1か月の学習の振り返りを記入するスペースがあるが、週に1回など必要に応じて生徒とやり取りすることで、適時生徒の学習の様子を指導者はモニタリングすることができる。

←定期テストの前後だけでの計画と振り返りでは自己調整する力を身に付けることは難しい！

(5) セルフマネジメントシートは生徒が枠や項目を編集することができないように “保護” をしています。本年度はパスワードを “a” としていますが、生徒には教えないようにしてください。

また、先生方で自由に編集していただいてご活用ください。